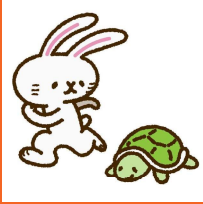


令和5年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 モデル施設 実践報告



【一步一步の前進が 大規模施設を動かし始める】

社会福祉法人 久英会
若久シニアビレッジ



2. スケジュール

- ・地域連絡協議会へ参加
- ・マネジメント力強化研修へ参加4回
- ・教育委員会活動
- ・技術力強化研修5回参加

・教育委員会
活動計画承認

・5月：ノーリフティングケアFESへ参加

5/26 技術力強化研修へ
2名参加

10/21 技術力強化研修へ
2名参加

・2回目の腰痛調査開始
・福祉用具
デモンストレーション



・1回目の腰痛調査開始
・教育委員会の開催

8/24・9/7 技術力強化研修へ
2名参加

・6/11 技術力強化研修へ
2名参加

・京都橘大学 腰痛調査へ参加
2月に協力してくれた職員
8名を対象に実施。

1. 二年目の思い

・令和5年度 施設目標のテーマ ケアを見直そう
～ナラティブケア、ノーリフティングケア～



・委員会での活動

教育委員会で活動計画及び年間スケジュールを作成



・福祉用具の活用

スライディングボード、スライディングシート、グローブ、フレックスボード

・ノーリフティングケアの理解度を深める



3. 組織体制(会議・委員会)



社会福祉法人久英会
理事長

若久シニアビレッジ
施設長

課長会議(幹部)

運営会議(各主任以上)

教育委員会
毎月第二(水)14時半開催

その他 11の委員会

ノーリフティングケア推進会議
毎月第二(火)10時開催

棟(セクション)会議
毎月第二(水)19時開催



4. メンバー構成



役割	教育委員会	推進メンバー	サポートメンバー
統括責任者	副部長		
福祉用具管理	生活課長		
プランニング	作業療法士	介護副主任	
技術教育	介護主任 (作業療法士)		
健康管理		看護師	
	課長3名		介護職員8名
	介護主任5名		事務職員1名
	居宅ケアマネ		

生活支援課(特養):5棟(セクション)
 医務課:(看護、OT、ST、歯科衛生士、管理栄養士)
 事務課:(相談員、施設ケアマネ、事務員)
 在宅支援課:(ショート、デイ、グループホーム、居宅介護支援)
 それぞれの課より、参加してもらい活動を行う。

5. 活動計画

令和5年度 教育委員会 活動(計画・実績) 報告書

推進テーマ: ケアを見直そう ～ノーマティブケア、ノーリフティングケア～

視点	担当	実績評価指標(KPI)	目標値	目標達成日
組織の向上	委員長	久美会SV Team稼働率	93.3%以上	9月-3月
人材確保	委員長	研修率	15%以上	9月
利用者の満足	各主任	力量アップ率	47%以上	9月
	A 3	感傷改善率	57%以上	9月
業務プロセスの	研究委員	研究発表内容の確定	決定	1月
		研究発表内容の参加	参加回数	1回
		各都道府県の研究発表内容の検討	決定	2月
		職員勉強会の内容見直し	参加	9月
		研修テーマ「ノーマティブケア」実務体験	作成	2月
		令和5年度職員勉強会メニューの作成	作成	2月
		ノーマティブケア事業推進	A 3	地域連絡会結果報告回数
		福祉用具導入	各委員	3棟以上
		福祉用具活用状況確認、意見交換、課題検討、改善報告	各委員	報告回数
		久美会介護教育委員会 結果報告	各委員	報告回数
		久美会看護教育委員会 結果報告	各委員	報告回数
		外部研修への参加(研修プログラム・実務者の両方など)	3名以上	研修参加回数
		介護福祉士会研修参加	全職員	研修参加回数
		施設改善に向けた研修(他施設見学)	主任	研修参加回数
		研修(フロンティア研修)	委員	研修参加回数
		ノーマティブケア研修	委員	研修参加回数

令和5年度 教育委員会
活動計画を作成し、
ノーリフティングケアを織り込む

【業務プロセスの視点】
 ・ノーリフティングケア事業推進
 ・福祉用具導入

【学習と成長】
 ・ノーリフティングケア研修

6. 教育委員会での活動内容



委員会で
実演紹介



動画視聴研修

開催日	参加人数
令和5年 6月14日	11
令和5年 7月12日	10
令和5年 8月 9日	10
令和5年 9月13日	12
令和5年10月11日	13
令和5年11月 8日	11
令和5年12月13日	9



同日にセクション会議にて落とし込み

7. 実技指導

① スライディングシート使用の説明



② 実技:横移動(奥側へ)



③ 実技:横移動(手前側)



④ 実技:上方移動

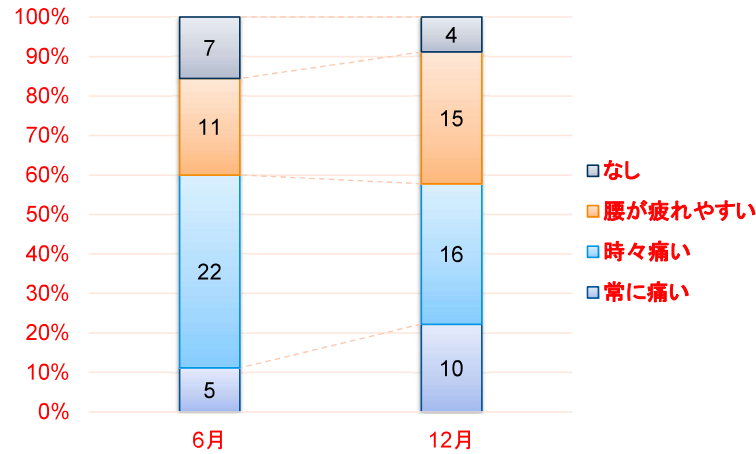


教育委員会のメンバーは活動を通して、理解を深め、実技指導の際も真剣な眼差しであった。



12月に福祉機器選定の際もそれらの視点を持ち、意見を述べる事ができていた。

8. 腰痛調査



対象 : 45名 実施月 : 6月、12月
6月時、中等度が高い為、軽減策を図り、ボディスーツや腰ベルトを施設にて購入、着用を検討している介護職員に使用をしてもらい、軽減できていたと思っていたが、課題が浮き彫りになった。

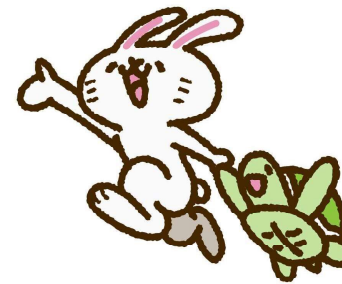
9. 結果(今期の良い点)

- 教育委員会にて技術力強化研修で学んだことを実技講習と称し実施することができた。
- 各部署に指導してもらう事で全職員への取り組み内容の認知と技術の理解・向上に繋がった。
- 理解度チェックの実施でより理解を促す事に繋がった。
- 自分の体(腰痛などの症状)をきちんと意識できるようになった。
- 教育委員会での活動とし、各委員の他に、ノーリフティングケアに興味がある職員をサポートメンバーとすることで、少数ではあるが、職員の認識や取り組みに対する姿勢が向上していると考えられる。

10. 課題(次年度に向けて)

- 福祉用具の活用が不十分である。
- 腰痛者(重度)が増加しており、要因を探り改善していかなければならない。(職員の高齢化、筋力低下)
- 職員の意識向上(ノーリフティングケアに対して)
- 教育体制の見直し(伝達方法や実技講習の時間)
- モデルとなるセクションを決め、波及できる体制作りを検討する。

最後に



昨年度の出来なかった事を今年度繰り返すではあるが、施設全体で取り組めたことは大きな収穫であった。ノーリフティングケアが浸透するには、まだまだ先は長いですが、これからもノーリフティングケアを推進し、繰り返し取り組み、利用者の安全や安心、職員の腰痛予防や身体的負担の軽減を図り、**一步一步、前に進んでいく。**